

第3号（2022年1月発行）
高等教育コンソーシアムにいがた 看護系大学タスクフォース

NSN 通信

(Nursing Students From Niigata)

新潟県内看護系5大学「N5（エヌ・ファイブ）」の情報をお届けします。

コロナ禍での各大学の授業や行事等実施状況

新型コロナウイルスの影響も2年目となりました。1年目で培った知見をもとに各大学工夫して活動を行っています。大学の様子をレポートしてもらいました。



長岡崇徳大学

看護学部看護学科 2年 大山 千尋

長岡崇徳大学を会場に【パパママサークル】が実施されています。長岡市在住の妊婦さんとパートナーさんに、赤ちゃんの沐浴体験やおむつ交換、抱っこの仕方などを体験してもらっています。学生ボランティアとして参加させていただくことで妊婦さんたちと交流ができ、毎回楽しく活動しています。また、妊婦さんへの接し方やパパ・ママとなる心境を伺うことができる貴重な経験となっています。



看護学部看護学科 2年 関 杏実果

長岡崇徳大学では、コロナ感染症対策を行いながら対面授業をしています。2年生の演習は、グループメンバーで学習課題を分担し、それぞれが学習してきたことを相互に教え合うジグソー学習を行いました。自分たちが学んだことをどのように分かりやすく正確に伝えるかということを考えて取り組むことができました。これから臨床的な内容が増えるため、空いている時間には同級生と技術修得に向けて自主練習に取り組んでいます。



新潟医療福祉大学

看護学部看護学科 教員 渡邊 千春

大学や学科が作成した感染対策ガイドラインに基づいてオンライン・対面を併用した方法で学んでいます。写真は、3年生の小児看護学実習、急性期看護学実習Ⅱ、4年生の助産学実習の学内演習の風景です。

本学では、小児、成人・褥婦をモデルとした高性能シミュレーターを活用し、臨床場面を想定した観察やコミュニケーション、ケア等様々な課題に取り組んでいます。また、教員や学生によるフィードバックを得ることで、更に学びを深めています。



新潟県立看護大学

看護学部看護学科2年 山岸 将大

去年に引き続き今年もコロナ禍での大学生活を送りました。その上で普段の大学生活とどのような違いがあったのかを述べていこうと思います。

一つ目は講義についてです。普段だと先生が学生を自由に当てるなどして双方向的な授業を行っていましたが、コロナ禍ではそういったことがしづらくなっています。

二つ目は実習についてです。これは普段の生活においてもいえることですが、病棟にウィルスを持ち込まないようにするため、より一層気を引き締めて感染対策を行っています。

新型コロナウィルスがいつ終息するかはわかりませんが、終息するまではこのコロナ禍に適応しながら大学生活を送っていきたいと思います。



新潟大学

医学部保健学科看護学専攻3年 太田 美穂

コロナ禍の実習では、模擬患者の事例を2例展開したため、スピーディーに看護過程を展開できることを目標にしました。

また、実習中に病棟の看護師さんから、終末期患者の方の関連図の指導を受けられ、私自身が病態を中心にしたケアを考えている傾向があることを知りました。

このことから、終末期の病態把握だけでなく、その方のニーズや、その人らしい生活を支援する視点を持って、ケアに繋げる重要性を学びました。

医学部保健学科看護学専攻3年 中村 梓

実習では、これまで苦手だった患者さんの精神的な面を深く考えたケアにチャレンジしました。コロナ禍ではありましたが、実際の病棟で術後の早期離床する患者の様子を見学できました。そのことを参考にして、早期離床に不安を抱く方に対して、その不安を推測しながら、離床に前向きに取り組めるケアと関わりを検討することができました。

新潟青陵大学

看護学部看護学科 2年 安藤 静羅

7月10日に第21回戴帽式を挙行了しました。Zoomを用いての開催でしたが、戴帽の儀では91名が誓いの言葉を述べ、自身の目指す姿を明確にすることが出来ました。キャンドルセレモニーは個人がキャンドルを灯した動画をまとめ、1つの動画として上映しました。また各アドバイザーの先生方からも激励のメッセージをいただきました。実行委員会の活動も制限がありましたが、先生方のサポートの下協力して行いました。

2年生の演習では、注射準備に必要な6Rの確認、使用物品の確認、無菌操作で注射器に薬液を吸い上げることを行いました。初めて触れる器具も多く、難しかったところもありましたが、担当の先生からわからないところは教えてもらいながら技術の習得を目指しています。

11月1日から全面対面授業が開始となりました。1、2年生は初めてのことです。対面授業を続けるためにも、これからも変わらず感染対策を行い学習に励みたいと思います。



看護を学ぶ後輩へのメッセージ

看護を学んでいる学生はどんなことを感じながら、日々看護の勉強に取り組んでいるのでしょうか。勉強以外の様子は？コロナ禍という過去に例がない状況を経験した先輩から、看護を学ぶ後輩たちへのメッセージをいただきました。

※長岡崇徳大学は開学3年目で4年生がいないため、記事はありません。

新潟大学

医学部保健学科看護学専攻4年 齋藤 まどか

座学、演習、実習と看護学生は多忙ですが、患者さんに言っていただいた「ありがとう」や仲間からの「頑張ろう」という言葉に何度も救われました。ぜひ、人のあたたかさを感じ、大切にしてください。

助産学実習では、小さくても一生懸命生きようとする赤ちゃん、命がけで我が子を出産するお母さんの姿から、改めて「命」の尊さを実感しました。当たり前にあるように感じている「命」にかかわるのが看護職であることを再確認し、責任をもって関わることの大切さを学びました。

私はアルバイト、旅行、遊びにも全力投球の学生生活を送りましたが、意外にも看護の学びにも役に立つことがたくさんあります。何事も迷ったらやってみる！大学時代にしかできないことに挑戦してほしいです。



新潟県立看護大学

看護学部看護学科4年 石田 栞那、中山 夏美、西田 奈那

新型コロナウイルスの影響で実習での制限も多く、学びの機会が減っていると思います。今ある機会を大切にして積極的に学ぶ姿勢を忘れずに頑張ってください。

旅行やライブなどの楽しみも少なく、思い描いていた大学生活を送ることができていない人も多くいると思います。友人と話したり、おいしいご飯を食べたり、今できる楽しみでストレス発散をしてみんで支え合ってください。

感染対策をまだ続けていかなければなりません。まずは、自分の健康を大切にしてください。課題や実習等でやらなければならないことが多いと思いますが、しっかり食べて、しっかり休んで、健康第一で乗り切ってください。



新潟医療福祉大学

看護学部看護学科4年 畠山 絢、渡辺 菜月

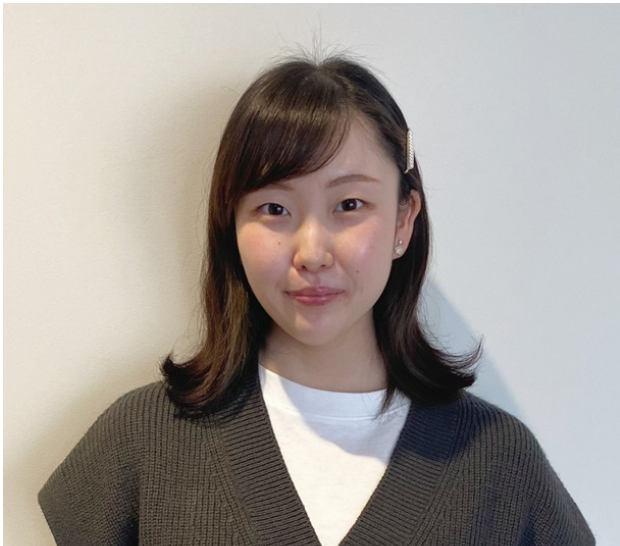
本学の4年生は、看護師はもちろん、保健師・助産師、養護教諭を目指して日々努力しています。その中から、保健師を目指し実習に取り組んでいる先輩2名からのメッセージです。

コロナ禍において、実習で患者さんとのコミュニケーションの機会が減ってしまいました。みなさんには貴重な実習の時間を有効に使い、将来に繋げてほしいと思います。

公衆衛生看護学実習は4年生の後期にあり、国家試験の勉強や卒業研究と両立して実習に望むことになります。忙しい時期での実習でしたが、患者さんとして入院される前の予防の段階から地域住民を支援することができ、看護職としても重要な予防の視点を学習することができました。

公衆衛生看護学実習はコロナ禍で制限もありましたが、地域の方と話す機会を設けていただき、有意義な実習になりました。参加した事業から保健師の役割について具体的に学ぶことができ、国家試験の状況設定問題などに直接繋がってくる実習だったと思います。





新潟青陵大学

看護学部看護学科4年 瀧澤 瞳澄

看護学生になり、学ばなければならない知識や技術の多さに圧倒され、看護師を目指したことを後悔しそうになったこともありました。そんなときは、自分がなぜ看護師を目指そうと思ったのか、どんな看護師になりたいかという目標を明確に持って、その目標に近づくための道のりなのだとと思えば、難しい勉強も大変な実習も乗り越えることができると思います。

国家試験の勉強は学年が上がるにつれて進めるのではなく、低学年のうちからコツコツ始めることをお勧めします。特に解剖生理や病態についての知識は低学年のうちに身につけておくことで、国家試験のためだけでなく臨地実習の際にも役立つと思います。高学年になってから後悔しないように、スマホアプリや問題集などでコツコツ問題に慣れておくとうれしいと思います。

勉強や実習がありながらも楽しく大学生活を送るためには、友達との助け合いが大事だと思います。看護学生ならではの大変さや辛さを共有しながら一緒にリフレッシュもして、限られた看護学生生活を楽しんでほしいです。大変なことも多いですが、沢山のテストや実習を乗り越えたあとの達成感は最高です！

<編集後記>

「高等教育コンソーシアムにいがた」(<https://consortium-niigata.jp/>)には、新潟県のすべての高等教育機関30校が集結しています。これら大学や高等専門学校等が連携・協力して、県民に新潟県で高等教育を受ける意義を伝える活動をしています。

このコンソーシアムの中で看護系5大学が作る看護系大学タスクフォース「N5」は、昨年度からニュースレターを発行して、それぞれの授業や行事等の実施状況を、5大学の現役看護学生で共有し合い、これから看護を学びたいと希望する中高生に発信しています。今回は、2年目となったコロナ禍で工夫を凝らしている大学活動の報告に加えて、前例のない経験をしてきた先輩から後輩たちへのメッセージを掲載しました。

多くの地元の皆様に読んでいただけたら嬉しいと思っています。

(新潟青陵大学看護学部看護学科 中平浩人(「N5」幹事校))

<看護系大学タスクフォース「N5 (エヌファイブ)」とは...>

新潟県内には、新潟大学医学部保健学科・新潟県立看護大学看護学部看護学科・新潟医療福祉大学看護学部看護学科・新潟青陵大学看護学部看護学科・長岡崇徳大学看護学部看護学科の5つの看護系大学があります。

この5大学が中心となって、「新潟県内の中高生に看護の魅力を知ってもらい、県内の看護系の学校に進学してもらうことと、新潟県で働く看護職を育て増やすこと」を目標にして、さまざまな情報発信を行っています。



2019年からその年開学した長岡崇徳大学が加盟し、「New Navigation Network for Niigata Nurses=N5、エヌ・ファイブ」となりました。「N5」は新潟県内の看護大学5校という意味と「New」が加わって、「N」から始まる英単語が5つになったという意味があります。

Navigationは、中高生・看護学生に看護の魅力を伝えるための活動を意味します。Networkは、新潟県内の大学や看護組織が協力するネットワークそのものです。Niigataは、活動の中心となっている大学が設置されている「新潟」を意味しますが「新潟県内の中高生が、県内の看護系大学に進学して、新潟県で働く」という願いがこめられています。Nursesは看護、看護職を表しています。

<発行>

高等教育コンソーシアムにいがた看護系タスクフォース

〒951-8121新潟県新潟市中央区水道町1-5939

新潟青陵大学(2021年度幹事校)看護系大学タスクフォース担当 TEL: 025-266-9550(企画課直通)